

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立浦和第一女子高等学校)

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 学力向上に組織的に取り組み、自己の進路実現を果たす一女生を育成する。 2 部活動、学校行事などに全力で取り組み、自らを高める一女生を育成する。 3 国内外との様々な連携を推進するとともに、一女の教育を積極的に情報発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	①入学時では県内トップレベルの学力をもつ生徒に対し、意欲と能力をさらに向上させ、高い志を持った進路希望を実現させるために、各教科・各学年が数々の取り組みを行っている。分掌間・学年間・教科間の共通理解をさらに推進し、計画的・組織的・系統的に学力向上を実践していくことが課題である。 ②全職員の間で共通理解のもと計画的なガイダンスの実施や的確な情報提供により、生徒自らが進路についてより考えるよう指導している。生徒一人ひとりに合った充実した進路指導が提供できるよう、学年・教科・分掌間の連携がより求められる。	①授業改善への取り組みに対する共通理解の推進 ②全職員による組織的な進路指導	①学力向上委員会を中心とし、各教科、分掌が連携し、情報交換を充実させることにより、生徒の自主学習を支援する体制を整える。生徒の資質・能力を向上させる授業を実践する。 ②学年および進路指導部の連携を綿密にし、各進路行事を一層充実・発展させる。さらに生徒一人ひとりが高い目標を持ち、目標実現に向けて進めるように指導にあたる。	①・学力向上委員会を中心に、学力向上に向けた組織的取り組みを実施 ・授業改善に向け研究授業を8回以上実施 ・情報交換会を3回以上実施 ・教科ごとの授業評価を実施 ・実力養成講座を組織的に実施 ②・情報提供により大学等の魅力の発信 ・進路ガイダンスを12回以上実施 ・個人面談を生徒一人に対し3回以上実施 ・三者面談の活性化 ・保護者向け講演会・進路説明会の充実	【授業改善を共通理解を持って推進した】 ①学力向上委員会において授業アンケートの見直しを行い、各教科共通質問項目を設定した。研究授業を8回実施し、情報交換会を3回以上実施した。早朝・放課後・長期休業中の実力養成講座は各学年ごとに組織的かつ計画的に実施し、延べ3600名以上の生徒が参加した。 【組織的な進路指導に取り組めた】 ②学年・進路指導部を中心に進路ガイダンスを12回実施した。各担任による個人面談を生徒一人に対して3回以上実施し、保護者向けに進路講演会・説明会を5回実施した。	B A	全教職員が課題を共有し、共通理解のもと、生徒の学力向上・進路実現のために、さらなる協働が求められる。また新学習指導要領・新入試に向けて探究型の授業の研究も必須である。
2	①生徒は授業以外の多様な教育活動にも意欲的に取り組む。SSHに対しては、希望者が多く満足度も高い。SGHに対しては、さらなる魅力的なプログラムを開発、発展させる必要がある。 ②生徒が中心となって様々な学校行事を企画運営している。主体的に活動できる生徒が多いので、今後はその活動をより効果的に支援することが求められる。 ③悩みを抱える生徒支援のための教育相談をより充実させると同時に、生徒自身にも生きる力の醸成を促していくことが求められる。	①SSHの取り組み状況 SGHの取り組み状況 ②各学校行事における支援状況 ③教育相談体制の充実	①SSH推進委員会・SGH推進委員会を中心に全職員で各々の活動の取り組みを支える。 ②生徒会を中心に、各行事において生徒たちが主体的に活動できる環境づくりを行う。 ③生徒指導部、環境部、教育相談委員会を中核とし安全・安心な学校づくりのための組織的な取り組みを推進する。	①・SSH1年受講生80名、選択生徒の満足度100% ・SGHの効果的な計画立案、実施及び生徒全体への還元 ②・各行事における生徒の満足度 ・生徒の成長 ③・スクールカウンセラーの有効活用 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ・支援を必要とする生徒の情報共有	【SSH・SGHなどの探究活動を推進した】 ①SSHは全校生徒対象に実施され、特に1学年選択者の満足度は100%であった ・SGHは「SG探究の時間」「SGセミナー」及び毎外派遣研修等を大学など外部と連携しながら実施できた。 【各学校行事へ十分な支援を行った】 ②体育祭・文化祭等の学校行事も実行委員会主導で行われ、生徒たちの自主性・主体性の伸長が見られた。 【教育相談の内容を全校で組織的に共有できた】 ③スクールカウンセラーと教職員の連携を密に行い、全教職員で情報共有を行い、組織的に支援を行うことができた。	A A B	SSH・SGH事業を各教科とバランスを取りながら、より組織的・効果的に取り組む必要がある。より主体的かつたくましい生徒を育成するために、さらに学力のみならず心を伸長させる教育も必要である。
3	①県民や地域に本校の取り組みを幅広く公開しているが、さらに授業公開、HP、説明会等を活用し確実な情報提供を促進していく必要がある。 ②幼稚園・小学校・中学校・塾・大学・地域との連携を図り、充実した取り組みを展開している。大学の研究室等との共同研究などさらに一歩進んだ質の高い連携が望まれる。また、外部評価を活用し、さらにグローバルな連携の構築が求められている。	①本校教育活動に対する情報発信の充実 ②外部との連携の推進	①学年、各分掌が連携し諸行事の充実を図ると共に、その活動を広範囲に発信していく。 ②教務・学年を始め、各分掌が中心となってさまざまな連携の充実を図る。国際交流委員会やSGH推進委員会が綿密に連携する。	①・授業公開を年13回実施 ・学校説明会を5回以上実施、2000人以上参加 ・1年生による出身中学校訪問を実施 ・HPのアクセス数年間10万件以上 ②・文化部を始めとする部活動の地域参加 ・幼高連携、高大連携の各プログラムの充実 ・学習塾との連携による志願者数の向上 ・地域住民の方々との交流3回以上 ・小学校との交流参加者50名以上	【多くの媒体を通じて教育活動を発信できた】 ①土曜日を活用し、授業公開を年13回実施した。学校説明会を5回(中学生対象4回、小学生対象1回)実施し、本校の魅力を外部に周知することができた。 HPに関してはほぼ毎日更新し、年間アクセス数は10万件弱であり、例年並みであった。 【地域と活発な連携ができた】 ②近隣の幼稚園・小学校・中学校・地域との交流事業に10以上の文化部や、100名以上の生徒が参加した。また、中学校や学習塾にも出向き本校の魅力を伝えた。	A A	外部に本校の教育活動を正確にかつ的確に伝えていくためにより効果的な情報発信の充実が望まれる。

学校関係者からの意見・要望・評価等

・生徒参加型の授業が展開されており、生徒が主体的に学ぶ姿勢がよく表れている。
・一女は勉強だけできれいなという教育ではなく、総合的人間力を育成している。
・授業に「アクティブラーニング」的な要素が多く取り込まれている。家庭科などの授業も生徒が主体的に活動している。
・授業を参観したが、ノートの取り方、授業の受け方等がしっかり身についている。

・SSH・SGH事業が全校生徒に波及していることがわかった。
・SGHは2年目であるが、前年より組織的に取り組んでおり、軌道に乗ってきた。先生方はお忙しいかと思うが、SGHをとおして課題解決をしていくことは、生徒の将来に生きるものである。このまま推進してほしい。

・保護者アンケートの結果も総じて高評価である。保護者としても安心して学校に通わせることができている。
・地域の行事に一女の生徒が積極的に参加してくれて感謝している。全日制と定時制の生徒が連携して、よく協力してくれる。